

第4回前橋市はたちのつどい 「はたちのメッセージ」

ただいまご紹介に預かりました渡辺希哩と申します。本日はこのような立派な式を開催して頂き、また温かいお祝いの言葉を頂きましたことを心より感謝申し上げます。前橋の豊かな自然と人の温かさに囲まれて育った私たちが、今日こうしてはたちの節目を迎えることが出来ました。ここにお集まりの皆様とこの喜びを分かち合えることを嬉しく思います。「はたちのつどい」という大切な日に、この場でお話しさせていただけることを心より光栄に思います。私がこうして皆さまの前に立っているのは、これまでボウリングという競技に打ち込み、ナショナルチームの一員として活動してきた経験を評価していただけたからだと感じています。このような機会をいただけたことに、まず深く感謝申し上げます。

私にとってボウリングは、単なるスポーツではなく、自分自身を形作ってきた大切な存在です。幼い頃、自分のボールを持ってボウリング場へ行くことだけがただ楽しかった時から、全国大会に挑み、世界の舞台を目指すようになるまで、本当にたくさんの人に支えられながら歩んできました。

しかし、これまでの道のりは順風満帆ではありませんでした。特にコロナ禍では、当たり前のように投げていたボウリングができなくなり、練習場が閉まり、体も感覚も鈍っていくような不安を抱えながら過ごしました。投げられない日が続く中で、「自分はそのまま競技者でいられるのか」と悩むこともありました。

学校生活でも、修学旅行などの行事や大会が相次いで中止となり、友達と過ごす時間も制限されました。スポーツも学校も、どちらも思い描いていたようにはいかなくて、自分の力だけではどうにもできない現実に向き合うしかありませんでした。

そんな時、私を支えてくれたのは、やはり周りの人たちの存在でした。中学、高校、大学、そしてボウリングを通じて出会った仲間たち。環境が変わるたびに不安はありましたが、どの場所にも「頑張れ」「一緒に乗り越えよう」と励ましてくれる友達がいました。競技で壁にぶつかったとき、悔しい結果が続いたとき、肩を貸してくれたり、冗談で笑わせてくれたり、その一つひとつが私を救ってくれました。仲間の存在は、アスリートにとって何よりの支えであり、心のエネルギーです。

そして、私がここまで歩んでこられた最大の理由は、やはり両親の存在です。早朝からの送迎、遠征費の工面、結果が出ない時の見守り。うれしい時は誰より喜び、悔しいときはそっとそばにいてくれました。ボウリングを続けるには家族の支えが欠かせません。成人となった今、これからは少しずつでも恩返しができるよう、競技でも生活でも成長していきたいと思えます。

昨年私は世界大会に出場し、3人チーム戦銀メダル、5人チーム戦銅メダルを取ることができました。金メダルまであと1歩でしたが、世界のトップ選手たちのレベルの高さを肌で感じました。スピード、回転、戦略、メンタル、すべてが想像以上で、自分の甘さを痛感させられました。しかし同時に、「まだ自分はもっと強くなれる」「もっと上を目指したい」という強い気持ちが湧き上がりました。世界の舞台で感じた悔しさも学びも、私にとって大きな財産です。この経験を活かし、今後はさらに高い目標に挑み続けたいと考えています。

そして今日、20歳になったこの日は、競技者としてだけでなく、一人の人間としての「自立」を意識する特別な日です。これからは、誰かに支えてもらうだけでなく、自分の行動に責任を持ち、自ら選び、未来を切り開いていかなければなりません。スポーツの世界では、結果はすべて自分の積み重ねで決まります。投げた瞬間に嘘はつけない。毎日の積み重ねが、自分の力となり、結果となって返ってきます。これはこの先の人生でも、きっと同じだと思います。努力を惜しまず、周りへの感謝を忘れず、一步ずつ前に進んでいきたいと思えます。

今日この日を迎えられるのは、家族、友人、先生方、地域の皆さま、そしてボウリングを通じて出会ったすべての人のおかげです。これまで支えていただいた感謝を胸に、成人として、そして日本代表の一員として、これからも努力を続けてまいります。

最後になりますが、私たちが育ててくれた前橋市への感謝を胸に、ここにいる全員でこの街の未来を担う一員として力を尽くしていきたいと思えます。あわせて前橋市の更なる発展と皆様のご多幸を心より祈念して結びの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。